

北大病院薬剤部 NEWS

薬剤部 広報誌担当（内線5683） Vol. 25 （2012年05月14日発行）

安全で確実ながん化学療法を目指して

「プロトコル・レジメンフォーマット」統一と登録の強化

がん化学療法は手術、放射線療法とならび、がん診療において重要な役割を担っています。しかし、抗がん薬は一般に重篤な有害事象が高頻度に発現するため、安全にまた、確実にがん化学療法を行うことが不可欠です。2008年4月の診療報酬改訂により新設された「外来化学療法加算Ⅰ」では、従来の施設基準に加え、レジメンの妥当性を評価、承認し、登録する委員会を設置した医療施設のみが算定できるようになりました。それに伴い当院でも外来治療センターでの化学療法は、承認を経て登録されたセットを用いた注射オーダーのみが使用できるようになっています。

このように外来では事前のレジメン登録ならびに管理が行われているのですが、当院における最大の問題点として、入院患者におけるがん化学療法が全て予め承認されているものではない、また患者個別のレジメンがないため医師以外確実な処方チェックが行えないという現状がありました。そこで、医療安全の確保、がん薬物療法の標準化、業務の効率化を目的とし、2012年5月より当院の方針として「プロトコル・レジメンフォーマット」を統一することとしました。

院内化学療法レジメン登録に必要な提出書類

- ①申請書(診療科長の署名必須)
- ②抗がん薬投与量が明示された化学療法治療計画登録申請書
- ③プロトコルの元となる文献

第3相試験の結果を示す資料(第3相試験が進行中の場合、第2相試験)臨床試験として行う場合、その臨床試験のプロトコルと倫理委員会・IRBからの許可申請が確認できる資料
実施医療としてすでに一般化されている場合は、判断材料となる資料



血液内科		化学療法治療計画書			入・外		(主治医)→(薬剤部)		
					指示医	@LOGINSTAFF			
ID	@PATNO	氏名	@PATNAME		性別	@PATSEX			
					年齢	TMONTHLESS/@PATM			
レジメン名	リンパ腫:R-CHOP療法			申請済がん種	B細胞性悪性リンパ腫				
身長	@PATHEIGHT	cm	体重	@PATWEIGHT	kg				
体表面積※	#VALUE!	m2	アレルギー・過敏症	選択	sCr		mg/dL		
投与手技	選択				eGFR	#DIV/0!	mL/min		
※体表面積=体重 ^{0.425} ×身長 ^{0.725} ×0.007184					eGFR(男) = 194 * Scr ^{-1.094} * age ^{-0.287}				
					eGFR(女) = eGFR(男) * 0.739				
基本レジメン	1コース	21	日						
薬剤名	投与量	Day1	...	Day5					
リツキサン	375 mg/m2	●							
オンコピン	1.4 mg/m2	●							
ドキソルビシン	50 mg/m2	●							
エンドキサン	750 mg/m2	●							
プレドニゾン	100 mg/body	●	●	●					

図1. 化学療法治療登録書

レジメンフォーマットでの入力項目

患者ID、患者氏名、身長、体重（赤字は自動入力）、投与手技、（クレアチニン値）、アレルギーの有無、開始日、開始時間、コース数、治療目標、レジメン投与量の変更・追加・削除、指示量

上記のように、今後、がん化学療法を行うにあたり、プロトコルが事前に承認されていること、化学療法治療登録書（図1参照）を用いた患者個別レジメンを作成することが必要となります。統一した登録レジメンは、医師、薬剤師、看護師のほか、医療従事者に広く周知し、スタッフ間で情報を共有することが医療安全に繋がります。安全で確実な化学療法を行うために、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。詳細は、医療情報（HIS）端末の薬剤部Hpでご確認ください。

Staff Interview

浅野 逸郎



現在、薬品管理室に所属しています。安全で、効果的ながん化学療法を目指し、日々精進していきたいと思えます。また、薬剤部Newsへの掲載を希望されるテーマやご意見・ご助言などありましたらお気軽にメールいただければと思います。